

会議録(概要版)

審議会等の名称	第3回山口市スマートシティ推進協議会
開催日時	令和2年12月16日(水曜日)9:30~11:30
開催場所	防長苑 2階 孔雀の間
公開・部分公開の区分	公開
出席者	松野浩嗣委員、杉井学委員、濱田泰委員、大田正之委員、永久弘之委員、山本庸子委員、会田大也委員、田中光敏委員、中島和彦委員、鈴木文彦委員、兒玉達哉委員、高田新一郎委員、藤井智佳子委員
欠席者	中川健一委員、田中貴光オブザーバー
事務局	山口市総合政策部スマートシティ推進室
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1)スマートシティ推進ビジョン策定について</p> <p>①前回協議会における御意見、御提案</p> <p>②ビジョン策定に向けた取組の整理状況</p> <p>③本市の動き</p> <p>④協議会スケジュールの確認</p> <p>(2)濱田委員からの話題提供</p> <p>(3)大田委員からの話題提供</p> <p>(4)山本委員からの話題提供</p> <p>(5)意見交換</p> <p>4 次回の日程</p> <p>5 閉会</p>
議 事	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>【会長】 (会長挨拶)</p> <p>3 議事</p> <p>(1)スマートシティ推進ビジョン策定について</p> <p>【事務局】 (資料1「スマートシティ推進ビジョン策定について」について説明を行う。)</p> <p>【会長】 ありがとうございました。何かご質問等はないでしょうか。先ほど冒頭私が申した話</p>

がちょうど今出てきたスライドの 9 枚目ですね。そのところがイメージであろうと思います。分野ごとのところで、データ連携基盤を作って、それを分野間で、階層的に統合して行って、最終的にデータ駆動型社会、データの中からいろいろ、新しい情報とか知見を取り出して、それをまちづくりに生かしていくというものを作っていこうという考えであろうと思います。何かご質問等がありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、2 番目の議題に入りたいと思います。まず、濱田委員からのお話になります。用意をお願いいたします。

## (2) 濱田委員からの話題提供

### 【濱田委員】

皆さんおはようございます。株式会社コアの濱田と申します。今から話題提供という場面で話をしていくことになっていきますので、話題提供ですから、勝手に言っていく部分がかかなりあります。

話に入る前に、今、市の方から報告がありました策定ビジョンの設定についての話の中で、すいません最初に 1 ページ目めくったところに、ちょうど真中辺に官民目線ではなく、市民目線での取り組みが重要というのは、前回も話に出ていましたし、いろいろなことをお聞きして率直に思ったのが、非常に官民目線だったと、申し訳ないですけど、はっきり言わせていただきます。つまり何か大きな仕掛けを作ることで、市民個々が豊かになるというようなことを引っ張りあげているみたいな、そのような、すみません印象なのですね。その辺りも含めて、私の話の中は逆です。いかに市民目線にしてこのスマートシティというものを、取り組んでいくのか、少なくとも山口市ですね、他の市の話をするつもりはないのですが、山口市の市民が豊かになるためにどうするかみたいなことも少しご提案も含めて、自分の会社のこれまでのことでお話をさせていただければと思っています。表題は山口市スマートシティ推進における人材育成の課題についてです。

まず私の会社、株式会社コアがどういう会社なのかを少しお話させていただきます。会社の設立は昭和 59 年、1984 年でありまして、隣の街の防府市の大村印刷の印刷会社の企画部門を少し分けまして、独立させました。広告代理店として設立しております。その 3 年後に拠点を山口市の方に移しました。大手町です。ターゲットと言いますか、お客様として考えたのが県庁であり、市役所です。率直に申します。詳しく言うと長くなるのでさっさといきますが、1988 年にマッキントッシュを導入しました。ご存知のある方はあると思いますが、アップルのコンピュータで、このコンピュータは私どもの仕事にはとんでもない革命を起こしたというのが私の印象です。それまでのアナログで、手作業でデザインをしていた部分をどうやってデジタルに置き換えるかというのが、大変なインパクトがありました。表現を広げるとか、可能性を伝える情報の可能性を広げるということにマッキントッシュを導入して、あれこれやっている内に、実は表現力が広がってきまして、広告代理店ではあるのですが、産業振興財団さんの企業データベースという仕事を受託しております。県下の 2000 数社だった

と思いますけど、アンケート調査をしてそれを一枚の CD-ROM に収めて、いろいろなビジネスに活用していただくという仕事でした。やったこともないことを初めてやりました。その後が山口県の観光連盟の観光便覧という、この時点では印刷の仕事をいただいたのですけれど、データのとり方を整理して、後々これが今現在でも増えていますけど、山口県の観光データベースというものに繋がっていています。

そんな仕事をしているときに、会社の中にマルチメディア課という3名専従でいまして、その辺が本格的な仕事の出組というスタートです。その後、1996年、産業振興財団さんのホームページのデザインコンペで受託させていただいています。あと、下関にある県の海峡メッセのオープンのホームページを作ったりして、HPの仕事が始まって、次に、山口大学医学部さんから電子シラバスを作りたいという話がありまして、なんですかそれというような感じで初めてお伺いして打ち合わせしながら、先生方はアメリカだったと思いますけれど、どこかの大学で電子シラバスというものはもう動き出している、こんな感じなのですよ、ということで見せていただいて、勿論やったことはないのですけれど、なんとか作り上げたというのが2000年前でございます。

もう一つ、東京にコングレというコンベンションの会社がありますが、こちらの方がコンベンションというのは学会や、会議など大きな会議をなさるのにアナログですね、サービスをやるというのが仕事なのですけれど、その中にウェブシステムを入れたということで初めて仕事をいただきました。これはあの山口大学の医学部の先生のいろいろな繋がりの中で相談いただいた仕事で、ウェブシステムというのは会議開催用のシステムでして、これがなんと特許が取れた仕事です。現在も生きております。山口きらら博があったり、大手町から後河原に移転した時に、ウェブ系の社員、仕事が増えたりしたので、名前をマルチメディア課というよりも良いということで、ウェブ課と名前を変えまして、6名でやっております。山口県の県庁のホームページの仕事を受託しました。これは景気がちょっと斜めの時に、緊急雇用がありまして、アルバイト6人ほど雇って、県庁のホームページ全部で600ページになったと思いますけれども、毎日毎日みんなが手作業で替えるという仕事で、懐かしいなと思います。山口国体、ねりんピック、これはきらら博も含めてですけれど、我々業務として仕事をさせていただいたということで書かせていただいています。2017年、今から3年前ですけれど、事務所を中園町の、今のケーブルビジョンの隣の建屋一階に移転させていただきました。この時に現在ITS部という、れっきとしたシステム関係の部署ですけど16名でやっております、デジタルハリウッドSTUDIO山口を開設しております。会社の歴史は36年なのですけれどデジタルの歴史が32年ほど、私なりにマッキントッシュを買って以来、デジタルに変わったと自分では思っております。このようにして会社としてのデジタルの出組を始めたということです。

2ページ目ですけど、デジタルの歴史の中で2つの側面がありました。一つは制作現場です。デザインとかクリエイティブの現場ですね。このクリエイティブの現場のデジタル技術というのが、マッキントッシュもですけれど、デジタルプリンタというのがありましてこれも非常にショックでしたね。それまで、複写機というゼロックスさんの複写

機、写すだけの写真です。それがデジタルでどっと出てくる。この変化というのは表現力にとんでもない変化をもたらしました。これによって日本、世界の多分デザイン業界のいろいろな表現力が変わったと思います。そして、表現するためのソフトですけれど、Adobe のソフトというのがありまして、イラストレーター、フォトショップ、お聞きになったことがあると思いますけれど、これが世紀の大発明と言いたいソフトです。デジカメが登場したり、あるいはウェブ情報が増えたりと、職場の広告デザインの仕事、今もやっていますけれど、ほとんどデジタルになっています。

もう一つの場面が、メディアです。広告業をしていますので、メディアというのは非常にテレビ局とか新聞社とかですね、仕事の目処のメディアもしかりなのですけれど、実は作るデータを受け渡ししていくその物がフロッピーとかCD-ROMとかMOとかDVDだとか、ほとんど過去の物になっていますけれど、こういったものとか、iモードとかインターネット、ネットスケープだとか、どんどん変わっています。携帯電話、ガラケーから 아이폰 に変わって、スマートフォン、タブレット、LAN ケーブルからWi-Fi、この辺りは苦労しました。事務所の中にランケーブルを這わすのにどれだけ苦労したかということがあるのですけれど、今やWi-Fiになって、そういうものはいらなくなってきます。これは多分、事務所の中だけでなく、もう家庭の中もこうなっていると私は想像します。

このような感じでデジタルがどんどん進んできていますが、年表にしてみたのですね。私の会社の歴史が下の方に入っていますけれど、先ほど述べたものを横に並べただけです。スタートを今、年表の1970年にしていますが、2045年と書いています。スマートシティ構想は今からやるという話ですから、ずーっと後ろの方です。これからいうと。私どもの取り組みが決定になるわけではないですけれど、ずっときていますが、今上の方にあるのが、いわゆるデジタル化の中でトピックスを並べております。先般、松野先生のお話の中に出ていましたけれど、凄い勢いでこのデジタル化というのは進んできています。過去のことに近いくらいのことがどんどん出来てきて、現時点ではもう成熟期に来ていると私は思います。それは技術的に成熟期じゃなくて、一般の利用者の方も実は成熟期にきていると言ってもいいのではないかと思います。

そんな中でこれから始まる5Gのサービスや Socirty 5.0、デジタル庁の設置など、これは多分もう次の話なのです。デジタル化の話よりも、次どうしていくのかという話です。そういう中で山口市のスマートシティが進められる。1945年とあえて書いていますが、シンギュラリティーと言われてはいますが、これから45年ですから25年先ですけど、もうAIの知能が人類の知能を超えてしまう、もっと前倒しになるかもしれません、となっていく。こんな中でスマートシティというのを考えなくてはいけないということは、よく立ち位置を考えないといけないのではないのでしょうか、と思います。

実は我が社の今の課題がもういくつか出てきていまして、マスメディアを使う広告業務は激減しています。もうご想像の通りでございます。ウェブ業務が激増しています。売上もこちらの方が増えてきています。これから伸びしろも勿論、ウェブ業務を支

える人材は不足しています。なぜかと言うと、急激な変化なので、スタッフがついてくることができないのです。もう本当に人材不足です。弊社の組織を少し書いてみますけれど、営業部から業務管理まで合計すると40名おりますけれど、上の営業部地域開発課というのはいわゆるマスメディアを使う広告部隊ですが、その次の営業部ウェブコミュニケーション課8名とその下の下のITSの17名、これはもう完璧にウェブ、あるいはシステムになっている部隊でございます。ウェブ系の人材が今25名、40名中の25名でございます。25名のウェブ系の人材の中で新入社員はたった3名しかいません。残りの22名は中途採用です。ちなみにこの3年間で5名中途採用しています。全部ウェブのシステムエンジニアです。このように業界というか仕事ではもうここまで来ていまして、地域におけるデジタル化の大きな課題であろうと思っています。

デジタル系の人材とはどういう人なのだろうと皆さんも思いだと思いますけれど、左側に4つの軸で、私が思いつく業務といいますか、仕事、こんなにあるのですよ。ウェブ系と一括りにすると簡単ですけど、真ん中にウェブデザイナーと置いてみますけれど、ウェブデザイナーやウェブマーケッターやウェブライター、あるいは下の方にグラフィックデザイナーやイラストレーター、カメラマン、3Dアニメーター、アニメーター、エンジニア系にいくとウェブシステムエンジニアやアプリエンジニア、管理系でいうとSEOの運営管理者というかECサイトの運営管理者などですね、ウェブに関わる人材というのは本当に多様になって、分業化されてきています。東京の方は分業化されてきていると思うのですけど、我が社の場合はこの中をいくつも皆が兼務しているというのが現実です。右側の表は縦軸に下の方が汎用性、上が専門性といいますけれど、ご覧の通りグラフィックデザイナーとか、イラストレーターというのは他の表現の仕事もしっかり出来る人たちですから汎用性が広いという言い方をしています。真ん中辺にウェブデザイナー、ウェブデザイナーといってもデザインをするだけではなくて、コーディングしますのでやはり言語を使います。コンピュータ言語を使いますので、真ん中辺にいます。上の方にウェブシステムエンジニア、アプリエンジニア、専門性が非常に高い人たちですね。この上の方が、不足しています。下の方は、まだまだ山口県山口市内でも勿論います。十分かと言われるとそうではないですけど。

こういう不足している状況の中で、真ん中の数字が間違っておりました。2018年です。17年になっており、失礼しました。2018年の7月にデジタルハリウッドスタジオ山口というのを開講しました。事務所の隣のスペースを使ってウェブデザイナーを育てる育成するスクールです。先ほどの真ん中辺にあったウェブデザイナーです。募集をずっとかけるのですけど、なかなかいないのですよ。採用しようと思っても、この当時まではほんとに不足しています。今も実は不足していますが、不足して募集しても来ないのであれば、自分で育てよう。できれば育てるなどということを高拍子で申し訳ないのですけれど、育てようということで東京のデジタルハリウッドというのが全国展開しているスタジオ展開を山口に持ってきたというのが始まりです。2018年7月ですから今から2年と少し前なのですけれど、現在まで2020年の11月で、累計受講者数が100名になりました。100名の方が市内を含め、県内からも来られてい

ますけど、達成したということで、まだ今から卒業していかれる方も勿論いらっしゃいますが、こういう方たちを少し地域にですね、先ほどの人材不足の所にも行っていただければなという思いがあります。実際に活躍されていらっしゃる方もたくさんいます。

今までの話、我が社の話なのですが、少し視点を変えて、せっかくだのでスマートシティ、最初に少し私も申しましたけれど、スマートシティというものを私なりに考えてみたいと思います。総務省の、これはグラフですから見たことがある方もいらっしゃると思いますけれど、このたくさん線が並んでいますけれど、注目すべきはこの真ん中の斜めに上がっていったるスマホの普及率ですね。もう一つが少し下の方にありますけれどタブレットの普及率、これは右端が 2017 年になっていますから、さらにこれから 3 年進んでいますので、もっと伸びていますね。もうほぼ持っていない人はいない、余程、高齢の方とか小さな子供とか以外は持っている時代になっています。つまりこれはデジタル化の成熟を意味していると思います。その中でもうデジタル化の環境も整っていると、申し訳ないけれど、線を引くとかそんな作業は要らない。データが空中を飛ぶのですからね。皆さんが利用する端末全部いきわたっているのです、この上、今学校でタブレットを全校に配布すると言っています。つまりデジタルを使う新たなサービスとか、新たな可能性というのは、もう実はスタンバイできていると言えるのではないかと思います。

次のスライドですけど、少し大げさな話をしますが、少しビジネス的に考えるとデジタル化というのは、もう本当にブルーオーシャン。今ないような仕事がかこれからどんどん出てくると私は期待しているのです。今ないような事が新たに、本当にどんどん出てくるのではないかと、少し大げさに言っていますけれど、期待しています。それも凄いスピードで進化していきますね。古いのがどんどん入れ替わっていると。そんなに今出来るからといって、何十年先までというのはないと思います。凄いスピードだと思います。これはもう時間と距離の壁を取っ払います。時間と距離の壁を取っ払う、この感覚が何をもちたのかというのがサービスの大きなポイントになります。都市間、格差ですね、都会と田舎の格差もある意味ではもう小さくなる、わざわざ、このコロナ禍で特にこれは進んだのですけれど、わざわざ東京に行かなくてもいいじゃない、わざわざ会わなくてもいいじゃない、あるいは時間を使わなくてもいいじゃない、みたいなことがもう市民の中に、あるいはビジネスの中に浸透していますので、デジタル化の大きな産物になってきています。新しいビジネスのやり方、働き方が始まってきていますし、肌感覚以上に進展しているのが日本のデジタル化という認識を改めてしないといけないのではないのでしょうか。この飽和状態になっているものを使って、私はスマートシティというのを考えるべきではないのでしょうかということ少し思っているところです。その下の方に書いてありますけれど、戦略的な発想としたときに山口市デジタル化は山口市民が豊かに暮らせる地域社会の構築と地域における新たな価値の創造を可能とするという発想がスマートシティという一番大きなテーマだと思うのですが、現実的な戦略、戦術の部分ではそういったものをしっかり持ってやられないと、今から何か道路を作るとか、何かを作るとかという話ではないのではないでしょう

か、そういう風にあえて言わせていただきます。

山口市のスマートシティ推進ビジョンというのは山口市×デジタル化としました。それでその下の文章はいただいている基本構想、基本のビジョンの中に書いてある文章ですから、それをそのまま置いて、これをこう並べて眺めながらデジタル化について考えていくと、誰もが豊かに暮らせる地域社会構築を最終目標とするのであれば、何が生まれるだろうか、あるいは地域における新たな価値の創造というのは何が生まれるのかということを考えればいろいろな答えがでてくるような気がしています。

私は企業人ですから山口市が一つの企業だとすると、企業はビジネスですから、マーケット、先ほどからいろいろ言っていますけれど、顧客であるお客さんは市民ですね。市民の生活はどうか、何を求めているのか、どういう状態になっているのか、というのを左側の方に書いています。デジタルインフラはもう充実している。生活の中でビジネスの中で十分デジタル化がもう、完成とは言いませんが、進化している。利便性というものをしっかりお客様である市民が理解をしている。消費者ルートの余剰というのは、これはデジタル化による方向用というのですね、その付加価値ですかね、得られる利益と言いますかね、消費者余剰というのをしっかり獲得しているのですね。もうみんな理解している。これは野村総研の会長さんがデジタル国富論かな、本を書いておられますけど、デジタル化、例えばグーグルを使って無料で検索する、あるいはツイッターを使って無料で情報を発信する、あるいは地図のナビゲーションを無料で使うとか、いろいろな無料のサービスがデジタル化の中にありますね。こういう無料のものを使うことで、世の中にどれだけのGDPの押し上げになっているかということを計算されたかどうかで、なんと 9.4兆円の効果を持っているというのが数字的な一つの資料になるのです。

そのような感じでデジタル化というのは豊かさを確実に提供してくれていると思います。Gaasがいわゆる市民目線で言うのであれば、市民に対してのサービスとしての行政の在り方ということ、どこかスマートシティということを考えるときに、こういう発想を持っていた方がいいのかなと思っています。

少し宣伝ですけど、我が社でお手伝いさせていただいていますが、山口市の公式LINE、今年の8月の後半にスタートしまして、LINEを使って子育て情報であったり、防災情報であったりというのを発信するサービスが始まっています。下の方に現在までの登録者数ですね、8月26日スタートで11月30日までで、登録者数が、なんと17265人、まあ女性のほうが多いのですけれど、75.5%ですけれど大変な利用が始まっています、こういったものが多分新しい、子育ては子育ての課が情報発信する、防災は防災の課が発信するとかということになっているのではなくて、一つのガバメントとして情報発信が市民と直接つながっているということの有様だと思います。

最後に公式LINEの先進的な事例なのですが、コロナ禍の中で行われた厚生労働省のアンケート調査、これはたった二日間でなんと2453万人の人が答えています。この調査データがデジタル化になっていますので調査報告書になっています。ということで、こういう新しい効果効能があるし、あるいは渋谷区の公式LINEですけ

れど、来庁ご無用、区民の人が区役所に来なくていい、全部手続きはオンラインでということが始まっています。いろいろなチャットボットを使ったり、AI を使ったり、ということいろいろな市民とのサービスを展開する。このような感じでデジタル化というのは、これは公式 LINE というのは、市民が利用するのは無料です。ということは、使うことでスマートシティの全てとは言いませんけれど、いろいろな部分で寄与するような発想ではないでしょうか。ということをお話させていただき、終わりたいと思います。ありがとうございます。

【会長】

濱田委員ありがとうございました。何かご質問等ありますでしょうか。どなたか。では私から、濱田さんが言われているデジタル化の環境は、市民側のツールとしてはスマホの急激な拡大で整っていると僕も思います。あとその上でですね、コアさんで特にウェブのデザインとかのところやってこられているわけですが、このスマートシティかなどで冒頭の話でしましたようにデータが溜まってきます。その中で AI を取り入れてですね、さらに、濱田さんの所のコアさんの事業をまたさらに展開していくための AI 利用ということでは何か考えておられることはありますか。

【濱田委員】

我が社はあくまでも業務委託を受けて仕事をしているわけで、独自にアンケートを取ったり、独自にデータ構築したりしているわけではないので、それ自体の利用はございません。但し、学会の仕事をしているのですけれど、顔認証のシステムとかも入れていまして、この辺のシステムの活用というのは今後可能性があるなと思っています。

【会長】

僕もその通りだと思います。濱田さんのところの会社の今やられているデザインのこと決して無くならないので、そこにプラスどういう、特にウェブシステムエンジニアやアプリエンジニアの所に他社と協力して AI をかぶせるかとか、自社でやられるか、みたいなのかな、という気がしております。何かありますでしょうか。じゃあ濱田さんどうもありがとうございました。

では次に、大田委員の話に移りたいと思います。商工会議所の専務理事をされております。大田さん準備をお願いします。

(3)大田委員からの話題提供

【大田委員】

皆さんおはようございます。商工会議所の大田と申します。私は資料だけでお話をさせていただきたいと思っています。先だって 12 月 6 日にはやぶさⅡが竜宮に行って 52 億キロの旅から帰って参りまして、昨日の新聞を見ますと、さまざまな黒い土が

入っていた、石が入っていた。今後地球が 46 億年前にできたのですけれども、なぜ、どういふふうにして出来たのかとか、ウイルスは 30 億年前に誕生したと言われていて、人類は 20 億年前、ウイルスの方が長く生きていますけれども、今コロナ禍ですので、ウイルスと人類の戦いといえますか、そういったことは歴史の中から、どういふふう人間がウイルスと戦って技術革新をしながら生きてきたのかというところをまず簡単に、自分なりに振り返ってみて、そこから今後につなげていきたいと思っています。

まずあのオットー・フォン・ビスマルク、賢者は歴史に学ぶということで、19 世紀ドイツを統一した立役者と言われてはいますが、彼は大変日本にも役に立った人物でありまして、当時世界的に植民地化がどんどん進んでおりましたけれども、1873 年、明治 6 年に岩倉使節団がビスマルクに会いに行きまして、「あなた方も富国強兵を行って独立を全うすべきだ。それを考えるべきだ。」と、維新直後ではありましたが、日本に帰って大変大きな影響といえますか、助言をしてくれています。その帰国後ですけれども、大久保利通、薩摩の人間ですけれども、富国強兵と殖産興業というのをどんどん展開していきます。伊藤博文は、日本のビスマルクというふう呼ばれてはいたけれども、常に葉巻をくわえていたそうです。山縣有朋も、自分も日本のビスマルクであると言って東京の椿山荘にビスマルクの銅像を掲げて、それを常に眺めていたというところ。それよりも前に、戊辰戦争においては会津、庄内藩からの新式の武器の調達、銃の調達は会津庄内藩がして、北海道をビスマルクに差し上げると交換話をしたところビスマルクは拒否をした。ということで、今の日本の国土の形成に大変大きな影響を与えた人物でございます。

そういった中で、これまでのパンデミックの歴史を少し紐解いてみますと、まず 14 世紀のペストの流行ですけれども、ヨーロッパでは三分の一の方が亡くなったと言われてはいます。当時モンゴル帝国、かなり人材不足、労働力不足というのが進んでいたようで、この時に何が進んだかという印刷技術、このような技術革新が行われまして、書いてございますけれども、ルネッサンスも当時だいぶ進んできたようです。ルネッサンスが結果として起きたということです。有名なデカメロンをみてみますと、フェレンツェから男女 10 人が 10 日間郊外に逃れて語り合うという物語で、今でいう、ステイホームというのがこの時にはもう既に行われていたということです。今の人生を楽しもうというような享樂な世界観がどんどん進んできたというところで、新たな文化がこの 14 世紀のペストの流行で起きたのではと思っています。

そして、16 世紀の天然痘の頃には免疫を持ったヨーロッパ人が、新大陸、アメリカとかオーストラリア、そういうところにどんどん進出するわけですけれども、そこでは新大陸の人の 9 割が死ぬ、亡くなったと言われてはいて、そのための代わりとなる労働として、アフリカから多くの労働者が新大陸に連れて行きました。当時日本にも種子島から天然痘、はしかが入ってきていて、こうしたことから大航海時代と言われてはいますけれども、人々の移動がどんどん進んで、世界地図、あるいは羅針盤の発達、海上交通の発達、こういったことで、グローバル化がどんどん進んでいった、ウイ

ルスに始まります疫病もどんどん進んでいった、こういう時代になってきたというところでは。

次のパンデミックを見てみますと、1918年から1920年にかけてのスペイン風邪です。これは通説によりますと、アメリカのカンザス州から発生したと言われてはいますが、世界中で一千万人から四千五百万人が亡くなったと言われてはいます。アメリカから発生したのに、なぜスペイン風邪という言い方をするのか、ということですが、これも、当時スペインは中立国でして、患者発生状況を常に発表をしてはいました。スペインだけが発生状況をオープンにしていまして、発生者数あるいは、そういったものが顕著になっていったからスペイン風邪と言っているようでは。当時まだ、電子顕微鏡もありませんで、原因が分からぬまま呼吸保護機、いわゆるマスクの装着、患者の隔離、学校の全面休校、などの対策がとられたようでは。日本では20代から40代の若い人を中心に40万人が亡くなった、と言われてはいます。その時には、ウィルスの変異により、今でいうところの2波、3波というのがみられたというところでは。1923年の関東大震災の死者数をみてみますと、犠牲者が、10万人というところでは、その当時のスペイン風邪の威力というのが大変よく分かるようでは。結局この時なぜ収束したかといいますと、人類は免疫抗体を自然に得たというところでは。スウェーデンはこういう政策をとっているようではすけれども、抗体を得て2年少しで鎮静化をしたと言われてはいるところでは。

このスペイン風邪によって何が起きたかというところ、第一次世界大戦が戦争どころではなくなったということでパリでの講和条約、ベルサイユ条約を経て終結をしてアメリカウィルソンの提案によって国際連盟が誕生をしてはいます。ソ連とドイツが不参加でしたので、中途半端な連盟となりましたけれども、今でいう国際的な組織のステップとなりまして、さらにグローバル化も、地球が一つに近づいてきたというところでは。当時としては主な戦力といいますか、潜水艦が主だったようではすけれども、1903年にライト兄弟が成功しておりますので、航空機による偵察機というのが当時はあったようではす。

近年ですと、パンデミックではありませんけれども、1973年のオイルショックがありました。この時は省エネ技術というのが大変発達をしてはいます。こうして見ていきますと、パンデミックによる歴史的な日というのが人類に何回かありますけれども、こうした危機が歴史を前に進めていっているということがよく分かってまいります。ダーウィンの進化論にもありますけれども、何かが起こった時に生き残るのは適応したものだけという法則がありますけれども、パンデミックによってグローバル化がどんどん進んで行き、その時々新しい技術、新しい文化によって人類は繁栄をしてきた、ということではないかと思っております。

今回の新型コロナにおいても社会全体のITリテラシーの高揚というのが大きく進みまして、デジタル化、脱炭素化というのが大きく進展するまぎにその時ではないかと思っております。国の来年度予算をみてみますと、この3次補正を含めてですけれども、デジタル化ですとか、脱炭素社会などの15分野に重点投資あるいは減税面での

優遇という方向で、現在調整がなされているところです。12月4日の朝刊各紙には「夜は明ける。想いは不滅。」というフレーズが掲載をされていましたが、新たな化学技術によって日本、世界に夜明けを告げる明るい兆しになればと思っています。

このように振り返ってみて今後の展望といえますか方向性ですけれども、2ページからになりますけれども山口市商工会議所が来年4月に開設をしようとしています広域ビジネスサポートセンターに関してです。新山口駅北地区の方に現在工事がどんどん進んでいますけれども、新たに産業交流拠点施設、その中に入居いたしまして、従来商工会議所で取り組んでいますけれども、事業承継、企業創業、経営発達支援というだけでは新たな取組という視点が全くございませんので、そこで新たに経営のDX化に取り組ましまして、新事業創出、という時代背景に沿った取組に新たにチャレンジをしたいと思っています。

先ほど、濱田社長さんの方からもありましたけれども、豊かな市民生活の実現というのを目指していきたいと思っています。生活の実感として、デジタル化によって豊かな市民生活が本当に実現できたと、まだ今は実感できていない状況ではないかと思っています。今後国が設置をします新しいデジタル推進会議、この目的にもありますけれども、デジタルの活用により、一人ひとりのニーズにあったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会の構築、こういった方向性と同じと思っていますけれども、国もこういう多様な幸せを実現できる社会、これを目指しています。このような多様な幸せ、豊かな市民生活の実現、これが結果としてですね、新たな経済の発展にも結び着くのではないかと考えているところです。

3、4ページにつきましては、支援体制、推進体制が書かれていますけれども、産業交流拠点施設に入居し、様々な形で関わられる団体ともしっかり連携をして、その波及効果がこの拠点施設エリアだけに限らず、さらに市内、県内そしてさらなる広がりを期待できるようなものにしたいと考えています。

5ページは、デジタル化による豊かな市民生活への具体的な流れをお示したものです。デジタル化による具体的な恩恵、豊かさの実感というのを出来るだけ示すことが出来るような、そういったものを実現していきたい、取り組んでいきたいと思っています。最後のページですけれども、今後の山口版デジタル遠隔推進スケジュールというところですが、来年度におきましては、経営のデジタル化を知る実証事業を推進することとしています。まだ具体的なことが決まっている訳ではありませんけれども、この事業と共にセミナーの開催ですとか、DXアドバイザーの設置などを検討しているところです。

さらに再来年度からは、経営のデジタル化を進めてみる実装事業にも取り組んでいきたいと考えているところです。最後のまとめになりますけれども、最初に人類の歴史を申し上げましたけれども、46億年からして、我々が生きてる時代は本当にわずかな時代なのですけれども、大きな技術革新がその時々危機の克服といえます

か、転換点になっているところです。スマートシティ、スーパーシティへの取組を世界がこぞって取り組んでいます。国、地方自治体においてもデジタル庁の設置前からではありますけれども、様々な取組を進めています。

ここで最も大きな課題といえますか、先ほど濱田さんもおっしゃいましたけれども、IT人材の不足があります。働き方改革も進んでいまして、都市部からの若者の地方への回帰、こういったものも現在ある程度ではありますけれども動きとしてはみられているところです。回帰人材白書によりますと、DX関連企業の69%、約7割がSEエンジニア、プログラマーの不足という回答を示されていますし、10月の転職倍率、こういったものを見てみましても、IT関係は6.64倍と非常に高倍率、人材確保がままならないという状況が手に取るように分かります。IT人材の不足がですね、現状を見てみましても、大きな経済損失、逆に経済損失になっているということもできているところです。

前々回の協議会におきまして、会津若松市の会津大学というIT専門大学を中心としたIT企業の集積という報告がありましたけれども、本市におきまして、そうした学びを中心としたまちづくりを積極的に推進して、できれば松野先生もおられますけれども、IT専門の学部の設置なども含めまして、検討していただきたいな、これまでの歴史に逆らうことなく、ダーウィンの法則のようにですね、環境に的確に適応して行って、さらに山口が発展するような、そういうまちづくり、若者がどんどん増えるようなそういったまちになっていけばと思っています。来年4月には新山口駅前に新しい産業交流拠点施設がオープンをします。この施設の発展だけに限らず、山口市全体、さらには山口県がさらに豊になって、生活しやすい豊かな地域になれるようにこれからも取り組んで参りたいと思っています。以上でございます。

#### 【会長】

大田さんどうもありがとうございます。最初のパンデミックは世の中を進めるという話がなかなか上手くまとめられていて面白かったと思いますけれども、私もどこかでこのネタを使わせて参考にさせてもらおうかなと思います。

何かご質問等ありますでしょうか。IT人材がすごく不足しているというのは、前からITという言葉もあったし、言われていたことですが、今もそれにかけて、AI人材の方がどうするのだ、みたいな形になっていると思いますけれども、その辺のITとAIとかいうところの切り分け、もう少し言うとAIを意識するということは、この商工会議所の中でも、そういう動きというか感触というか、そのようなものはあるのでしょうか。

#### 【大田委員】

今その中で議論をしているところなのですが、具体的なものを出しているわけではありませんが、新たに5人プラスαくらいの体制で新山口駅の方に店を出しますけれども、それも含めて今後取り組んでいきたいと思っています。今からですね、顔認証辺りがどんどん進んでくるのではないかな。カードとかスマホでどんどんやって

いますけれども、顔認証で支払いもできるようなシステムができております。そういったことも含めて、色々考えていきたい。

【会長】

また山口大学の方にもアプローチしていただいてですね、これも何か少し控えめに4 ページの右の方に山口大学と書いてありますけれども、もう少し真ん中の方にあってもよろしいのではないかと、また何かあったら連絡してください。よろしいですか。どうもありがとうございました。

それでは次に入る前に、時間が一時間概ね過ぎましたので、ちょっと休憩を兼ねて、換気をしたいと思います。どうしましょうか。50 分くらいでいいですか。じゃあ 50 分から次は開始いたします。

【会長】

時間となりましたので議事の4 番目、山本委員からの話題提供ということでお願いします。山本委員さんは山口産業振興財団の事務局長をされています。準備よろしいですか。お願いします。

#### (4)山本委員からの話題提供

【山本委員】

山口産業振興財団の山本と申します。よろしくお願いいいたします。まずチラシの方を見ていただけたらと思います。本財団は、山口県内の産業振興施策を総合的に実施する中核的支援として、県内中小企業さんと事業展開のステージに応じた総合的な支援を行う機関です。様々な事業があるのですが、今日はですね、経営相談、創業、第二創業支援、知財支援、販路開拓支援、というところで少しパワーポイントを使ってご説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

先ほどありましたように今はですね、ユメリア推進財団さん、NPYビルの方の10 階の方におりまして、この辺にいるわけなのですね。私、年齢がわかってしまいますけれども、平成5 年に入団というか財団の方に入りまして、その時にここのニューメディアプラザビルの各階お手洗があるのですが、そのお手洗いに入りましたら、何もスイッチもなくて電気がつくというその当時ですね、「わあ凄いビルに来たな」と思った次第です。少し余談ですが、その当時からこのビルは凄いなど少し思っていました。前々からデジタル化とかですね、進んでいるなというような感じでした。先ほども少し概要を申し上げましたけれども、県内の中小企業ということなので、山口市のみならず、全県を対象とした支援をしております。総合的に支援をしているということです。キャッチコピーとしては、「考える企業を応援します」と謳っております。

組織の変換ということで、山口県産業技術開発機構という組織と、山口県中小企業振興公社という組織が平成12 年に統合いたしまして、当時は、財団法人山口産業振興財団という団体になりまして、それから公益に移行ということで、今現在は公益

財団法人山口産業振興財団となっています。

職員はといいますと、非常勤の株得のですね、総代、楠が理事長でありまして、副理事長は阿野、職員が25名、プロパー、私どものようなものが15名、県の出向で派遣が2人、臨時職員が1名、で専門スタッフで55名、総計80名くらいになっています。

経営相談ということで、一つ目の支援です。山口県は支援拠点ということで、これは平成26年に国の事業として中小企業、小規模事業者が抱える様々な経営課題に対して専任のスタッフがワンストップで課題解決に向けて、相談を受けるというような形になっています。現在、チーフコーディネーター、チーフが1名、コーディネーターが12名、コーディネーターは様々な専門性ということで中小企業診断士、社労士、行政書士、ITアドバイザー、そういった形の者が揃っております。チーフは女性チーフでございます。全国的にも少し珍しいということになります。そして、このようなチラシ、パンフレットを作りながらやっております。実績は、昨年度のものになりますけれども、毎月100件以上の相談を受けたりしてまして、今年は特にコロナの関係の相談等が多かったです。全国的にも上位の実績を持っています。

もう一つはですね、山口県事業引継ぎ支援センターというのがあります。こちらは平成27年に設置されておまして、これも国の事業で、中小企業、小規模事業者の事業承継ですね、親族内承継、従業員承継、役員承継、M&Aについてですね、無料で相談支援を行っております。

事業承継につきましては、先ほども説明ありました山口市商工会議所様とか、各金融機関様も、取り組まれておまして、山口県ではそのネットワーク協議会というのを作ってまして、県内で、事業承継引継ぎのところに力を入れているというところです。当財団のスタッフは統括1名と専門相談員7名で、こちらも診断士、税理士、金融機関からの出向、OBというものもあります。山口県の特徴というか、高齢化が進んでいて、しかも後継者の不在率が74.7%全国で3番目に高い水準だということで、事業承継についても喫緊の課題であると意識しております。先にも申し上げましたような形で、全県でネットワークを駆使して取り組んでいくという形です。当センターの方では、相談会、啓発活動、セミナーとかですね、事業承継、計画作成などもお手伝いさせていただきます。

続きまして、創業、第二創業支援ということで今回挙げさせていただいています。創業はですね、当財団でも創業支援補助金というようなメニューがありまして、UJIターン、県外からこちらの方に山口県内に戻って来られて、就職されたりとか、そういう方も勿論いらっしゃると思うのでしようけれども、うちとしてはその創業する方に特化した形での支援をしていこうというところです。ここに書いてあるところには創業と、事業承継をマッチングさせる、こちらの創業は別に県外から戻られる人のみならず、県内での創業対象の方もありますのでけれども、廃業したいとか、後継者がいない、高齢で次の跡取りがいないとかというような事業を売りたいという方と、それを買って続けてやりたいとか、業態は少し変化するけれども引き継ぎたいというような方もですね、そういった専用のサイトを作っておまして、山口事業承継マッチングサイト、

お手元にクリアファイルの方に入れております緑色のパンフレットになりますので、また後程ご覧いただけたらと思います。こちらの方に登録して、双方にですね、うちに専門のコーディネーターがおりますので、登録したり、あと面談をしたりとかして、やっていく形になっております。ある程度はICTで支援しますというような謳い文句もありますので、それぞれが意向確認というかそこまではできる、今後ここ良さそうだなということまでは出来るのですけれど、後はコーディネーターさん、人間の力を借りながらやっていくという。

それとまた、創業はですね、事業承継のマッチングサイトについては、先ほど申し上げましたけれど、「創業の窓」という創業ポータルサイトとっておいて、こちらは確かコアさんの方にお世話になっていると思います。こちらの方で創業の事例とかですね当然補助金などの、そういう助成に係るメニューや創業する時にはどうしたらいいのとか、そういう形のものもありますし、過去創業されて県外から山口に移られたとか、山口県内で創業された方の、記者が取材に行きまして、こちらの方はどういった経緯で創業に至ったかとか、どういったことがネックになったかとかいうようなことも事例についておりますので、またご覧いただいたらと思います。

もう一つですね、創業に関して支援しているところが山口市の米屋町の商店街の中にあります山口創業応援スペース、「mirai365」でございます。こちらは本来、財団の方、運営委託を県の方から受けておいて、シェアオフィスとかワーキング施設で、商店街ですので、街中の賑わいをというようなイメージを持たせた形でこうした明るい雰囲気にしており、一階のに入った所には山口商工会議所様にも大変お世話になりました、あのチャレンジモールですかね、お店を出したいというようなところを新たに最初から固定資産をかけて物件を買ってやるというよりはここでまず試してやってみようとかいうような方のために、そういう場を提供しているということです。

また、女性サポートの方では、こちらの実践に実践的な創業のセミナーということで、これは女性に特化したものなのですが、創業して間もない5年以内くらいの方に、実務レベルのセミナーを行っているというふうになっております。

続きましては、知財の支援です。県内の中小企業様にいろいろな形で製品を開発していただいたり、製品を開発するときに携わったり、販路開拓の時に当財団の者が携わったりするときに、どうしても知的財産のことについても、感覚というか、意識というかそういうのがまだまだ脆弱だとか薄いような人、凄く多いですね。そうすると市場に出してしまうともうその特許性もなくなってしまったり、ネーミング一つ、意匠にとっても商標にとっても既にその人に取られてしまったり文句は言えない状態になってしまいますので、こちらの方に、もう既に取られてどうしようかというような相談もあるような状態ですので、そういうことも防ぐようにとか、先に重要性、知的財産の重要性というものを、知らず知らずのうちに侵害してもいけないし、言葉はあれですけど、パクられても損失ですので、そういったところを、意識改革、普及啓発を行っていくことをしています。こちらも今一般社団法人山口県発明協会というのが当財団の方に室としてありましてですね、そこと連携をして、いろいろなセミナーを行っ

たり、高校に出前授業のような形で、もう高校生の時から知的財産の大事さというのをですね、普及をしているというような活動もしております。山口大学では、一気に大学になってしまうのですけれども、知的財産に関して凄く教育をされるというところが昔からあって、山口大学に行った生徒は凄くそれを、いろいろな学部の生徒が分かるのですけれども、その前の段階からもう、高校のところで私どもはそういう意識を持って開発などにあたるような、そしてまた、会社に入る、仕事に就く、自分で事業をするというところでも、役立ててもらいたいという支援をしています。

知的支援については、先ほど連携と申しあげましたけれども、国の左の方にあります経済産業局、県内中小企業者様の相談を受けながら当財団とか発明協会で、こちらの山口大学様とか、大手の企業様と連携して、こちらでは休眠特許の活用とも書いていますが、大手の企業様で特許を取られて活用されていないような特許もあります。そういうものを、県内の中小企業さんに役立てられないかという、それがもう当財団の一応コーディネーターも付けながら、普及啓発をしているという支援に役立てているということです。

続きまして、販路開拓支援です。販路開拓の中には取引斡旋、起業家マッチングでありますけれども、それで新規の販路改革をし、拡大をし、県内の中小企業さんの利益率の向上を図るということを目指しています。ただマッチングしてその場限りのというよりは、その後のフォローアップなどに当財団、重視しております、利益の上がるような形、商談会を開催するにあたって専門の設定時間に共同出店というのもツールとして考えているところです。こういった形で大規模なもの、こちらで首都圏での展示館に出店という形でしております。海外展開の支援というのもメニューの中にありますけれども、昨今というか、今年からですね、コロナの関係で海外渡航ができておりません。この写真にあります例も県内で大規模にやっている商談会の例を出しているのですけれども、今年度につきましては、半分ぐらいはリアルに面談をして商談会をするということがありましたけれども、その後はもうオンラインを使って、商談をするというような形をとりました。海外についても勿論のこと、向こうのバイヤーさんと直接、山口県とオンラインで繋いでそこでプロモートするというような形で、商品はどうしてもですね、郵送というか送らないといけないので、そこで食品であればテイスティングを先にしていただくとかというような形で支援をしているところです。本当に模索しているような形です。そこで本当に商談が成立するかどうかというそういう形で。

下のところに少し太字で書いていますプロジェクト事業というそういう創出について少し申し上げたいと思います。プロジェクト事業というのは、販路開拓など、どちらかという一対一とかそういう取引の斡旋というのではなく、こちらにありますように、新技術の研究会を開いて、その物で開発を進めたり、その用途開発や、それをモデルケース的に助成金とかを支援することによって、産業として普及できないかというような大規模なものにできないかという形で、徐々にやっていくという取り組みです。こちらは今年の9月ですかね、山口市さんと共同で受託させていただいて、うちが、受託事業として受けてさせていただいた先端技術開発促進セミナーというような

ものです。先進と連動、最新化ということで新分野とか新技術に取り組むような形の企業さん、そういう意欲のある企業さんが集まっていたかと聞いています。金属加工とか板金、建設業、食品加工、情報関連、そういった企業さんが集まられて、こちらの方のRGとか、こういう講師の方を呼んで、技術的なことのみならず、それが今の仕事にどう役立つかなど、次の展開に向けてというようなセミナーがありました。この中の企業さんで、その知識、気付きをしてその後、自分の事業を新展開しようというような今意欲のある企業さんが出てきているので、今後、来年度事業として、是非それは実現に向けた形でしていきたいと、担当のほうからも聞いています。市内の企業さんの中にもいらっしゃるようでしたので、是非そういった形で、具現化すればいいなと思っています。

もう一つですね、これは当財団独自でやっています高度人材育成事業というものです。目的としましては、企業さんの社内の中でデータサイエンティストという、片仮名ではありますけれども、平たく言えば自分の中、自社の中でのデータ、情報を管理分析して、それを利益の拡大に繋げられるような人材を育ててくださいねという事業です。私どもが支援している企業様の中にはですね、まだ中小企業さんよりもう少し人数が少ない中で、金属加工とかされている企業様もありますので、そういった中で、ノウハウ、技術の伝承というものもデータ化して見える化はできないだろうかとか、それで後、食品系につきましては、マーケティング戦略、これはもうPOS情報とかでも随分前からあるのですけれども、この育成事業では、自分ところの商品を本当にターゲットを決めた形でもっとぐいぐい、遠回りをせずに利益に繋がらないかというような形で、もう個社支援のような形でつけてやっています。

今、金属系、食品系と分野を分けた形で、戦略が違うであろうからと、今、そういうセミナーの成り立ちにして研修をしているということと、それと後それぞれの企業さんの経営層の方と実務をやられる方とその両方との参加を促して、経営層に理解をしていただかないとその会社は変わらないということがあるので、必ず両方にきていただくという、個社支援で個別に企業訪問をして研修をする場合に、一つの例としてなのですけれども、経営者がお父様であったと、で実務層は今度後継者として今は実務にしているような形の会社に出向いて研修をしたときにですね、今まで親子なのだけけれども、思っていたことを言えてなかったと、実務者が経営者の方に、本当はこうしたいんだけど、ということが言えてなかったらしくて、その研修をしていくコーディネーターとか、講師の人が間に入っているいろいろなヒヤリングをすることによって、実はこうだったらしいよというようなことを間に入って話して、それがまた次の戦略に変わっていくというような形で今進んでいる。過去もこういった事業を単発でやっていたことがあったのですけれども、ここまできめ細かいというか分けた形でやったことがなくて、しかもこの事業は今年から始めたのですけれども、うちの独自事業ですので、来年2カ年度事業として組み立てていて、長期に渡り研修ができるようにしています。ですので、今まだ3回目ぐらい、個別と言いながらもまだ3周目を取り組んだばかりなので、金属系が5社、食品系5社というような少しスモール的な研修内容なのですけれどもハ

ンズオンでやるということで、じっくりしているというような形をとっています。こういった形で経営者さんと、実務者さんがこんな感じでやっているような形を今年の10月ぐらいから始めたというものです。

今年はコロナの関係で、県の方から補助金等々が入りまして、私共も突然でしたので夏ぐらいからバタバタといろいろな形で企業さんからの問い合わせがあったりとか、そういうのもありました。補助金の関係で中小企業さんが、食品の飲食の方々は皆さんもうあのお客さんがいらっしやらなくなって、他の業態に変えなくてははいけないとかですね、いろいろな補助金を使ってやられたようです。

システムの構築も、ウェブ会議に変えるとかそういったことでその補助金とか他の事業者さんの補助金もあったと思うのですが、セルフレジの導入などで、ARとかですね、IP ツールとかを活用した EC サイトの構築をしたいとかいうような補助金の交付申請などもありました。こういった形でピンチになったのだけど、これを機会に新たな展開をすとか、補助金の中には事業環境整備型といって、機器とかを購入できるようになっていましたので、そういったものもこの機会にウェブ会議のシステムを入れるとか、そういった形のことをされていたと思います。新製品とか新サービスとかという形の使い方もするという企業様もあらわれましたし、そういうメニューもあったのです。サプライチェーンの見直しをすとか、オンラインなどでやはり先ほども申し上げたような商談をしたいというようなことで、ネット販売、オンライン配信とかでそういったもので、中小企業さんが改めて取り組まれているという、そういった意欲も感じられています。

最後に、先ほど商工会議所様もおっしゃっていましたように、山口市の産業交流拠点施設へ移転することになっています。新山口駅北口から自由道路というのですかね、そこから直結になると聞いています。出会い、出会うということ、繋がるということ、生まれる、広がるということのコンセプトで、各企業様支援機関をうちだけでなく、商工会議所様もいらっしやいますし、その他ワンストップというような形で、連携していきたいなと思っています。下の所に産業交流スペースのメグリバというところが隣の建屋にあって、そこはもう本当に創業者さんとか、おそらくそこに山口商工会議所様も入られて相談を受けられるような形になるのかなと思っています。そこで私共もセミナーとかイベントとかそういう交流施設がありますので、連携して開催ができたかなと思っています。プレイベントのような形で今、メグリバさんの方ですかね、委託されているところでプレイベント、この間から何回かされていて、次が5回目かぐらいだと思うのですが、4回目か5回目ですね。1月の末に計画されているものについては、当財団も協力させていただくことになっていますので、是非またチラシなど出来たらご応募させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思っています。こういったところで私どもが四階に入ることになっています。ありがとうございました。

【会長】

山本さんありがとうございました。何かご質問等がありますでしょうか。僕が当てま

すけど、A 委員どうですか。

【A 委員】

はい、スライドの中に出てきましたデータサイエンティストの育成・教育機関におりますので、このデータサイエンティストの教育というのは本当に重要なのではないかと、山口大学でもそういうところに注目をしてしまっていて、室長、本日おられますけども、今後やはりそういうデータサイエンティスト、データドリブンと言いますけれど、データを見て、どういう分析ができるのかという人材が本当に必要だと思っていて、これはコメントですけれども、是非そういう所に力を入れて進めていただくとスマートシティ推進に役立つのではないかと感じます。

【山本委員】

わかりました。

【会長】

ありがとうございました。他何か。

僕もその仕事をしているから、そのデータサイエンティストのところで興味を持ったのですが、データサイエンティストを作るということよりも、面白いなと思ったのは、ノウハウの見える化ですね、それで何か経営者と事業者の話もこのデータサイエンティスト事業の中の話なのですよ、今の話は。その目線でやられているところが、非常に興味があって、そういうものの中から、さらに議論が会社の中で行われて、実際そのデジタル化がすぐできるものではないかもしれないけれど、知見とかデータが溜まっているわけですよ。知見というのはノウハウだろうと思うのですが、それを見える化というのは、ほとんどデジタル化してということと同じだろうと思うのですが、その部分で問題の洗い出しと、先を見越した戦略みたいなものをおそらくやられているのだと思うのですよね。それは産業振興財団の枠組であってできることで、非常になにかそこが面白いなと思ったのですが、その部分にそのデータサイエンティストの技術を持っている人とマッチングをする必要があると思うのですよね。

我々の方はデータサイエンティストの育成というところに力を入れていますので、是非その辺をですね、せっかく大学でもこういうことをやっていますので、また産業振興財団さんの方も少し使えるお金というか、そういう技術的な育成の方にも目を向けて、これは行政の方もそうなのですけど、やっていただくと、今うちは山口県さんと組んでやっています、具体的なデータサイエンティストの育成を。そういうものとかも是非ちょっと産業振興財団さんの中で目を向けてやっていただくと、ユーザーのところは十分ここでやられているのはよく分かったので、あと技術のところはどういうふうにならなければならないかという話であらうというふうに思います。

じゃあ、どうも山本さんありがとうございました。残りの時間は、意見交換に入ります。

す。今のお話でもいいですし、その前の話でもいいのですが、その意見交換に入る前に、せっかくだから、今日新しくオブザーバーというのが最初の市役所の説明の中でもあったと思いますけれど、B オブザーバーが来られているので、せっかくだからちょっとコメントいただけたらと思いますけどどうでしょう。

#### 【B オブザーバー】

はい、本日は貴重な機会をいただきまして本当にありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

今エストニアというのはちょっと注目されていますけれども、2年前から今の任務に就いておりまして、それまではフランスのコンサルティング会社の日本の統括をしております、プライベートなことながら実はこの頃ですね、うちの息子が発達障害と診断されて、その関係でなにか IT とかの教育で下駄はかして、普通の小学校に入れてあげようということを企画しております、そういう時にいろいろアドバイスを貰ってデンマークだとかフィンランドだとかエストニアとかぐるぐる回っていて、エストニアいいなと、去年 PISA のテストで出たかと思うのですが、中華圏を除くとエストニアが世界でトップになります。

エストニアの教育なのですけれども、なぜこのエストニアというのが IT でやっているかという、簡単に言うと昔のソビエトのシリコンバレーです。北の港でハンザ同盟の一番北の港なのです。なので、ご存知のように商業の所である港の、深い港なので凍らないのですよ。大きさが大体九州と同じくらいの大きさと人口 130 万、山口県と同じ人口。皆バラバラしている。貿易に適して攻めやすいということで、ドイツ騎士団や、スウェーデン、ロシアから蹂躪されてというところで、ずっとそういうことで、結局ソビエトの時代にいい港ということで、ソユーズと、アポロと合戦をやっているのです。後は原子力潜水艦の基地ができたというバックヤードだったので、IT が進んだまま 1991 年独立を迎えた。するともうご存知の通りソビエトは紙がないとか、トイレットペーパーもない状態で崩壊していますから、じゃあどうするかという時に IT 技術があるので、IT に振り切ろうということで、93 年に去年日本が通したデジタル化法案を通して。96 年に銀行がデジタル化しました。とかそれ以外に手が無かったらしいです。

あと、教育も 96 年に銀行さえもデジタル化したので教育もデジタル化、つまり、一人一台のコンピュータというのが 1996 年にもう達成されました。理由が、1988年にソビエト初のコンピュータはエストニア産なのです。というところがあったので、いわゆる貧乏だったというところから IT 技術があってそこに振り切ったというところが今、96 年に小学校 1 年生だった子達がちょうど 30 代というところで今中心に動いて行って、波がきたというところですよ。

それで、今回スマートシティ推進室の皆様の方にすごく交流させていただきまして、山口は、ずばり本当にエストニアと人口が同じで、首都タリンと山口市がほぼ同じだったら出来るのではと、話をいろいろさせていただいたので、今後ともいろいろと意見

交換させていただいて、近いようで遠い国で、本当に、エストニアの映像を見られる時間、報告できる機会がありましたら、見ていると田舎です。森いっぱいです。みんな森の中で住んでいて、デジタルはあくまでもこの絨毯の下にあるようなまち、また、今日はプレゼンしていただいた先生方がおっしゃったように、別にITとかAIとかは使いまくるもので。

僕は去年ですね、横浜市のIT業界の方をお連れしたのですね、いい言葉をいただきました。「Bさん、エストニアはIT先進国じゃない。この技術は日本に全部ある。ただ違いはIT使い倒し先進国、よくまあこれだけ使い倒しているものだ。」というところだったので、まさに今日コアの社長さんとか、商工会議所とか、振興財団とかおっしゃったように、後はどう今あるものを使い倒すかだと思いますので、こういった面でどうするかという教育をこちらの方でこれからと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

【会長】

B オブザーバー、どうもありがとうございました。じゃあ時間がもうほぼ迫っていますけれど何かご意見とかありますでしょうか。全体を通してなんで良いのですけれども。よろしいですか。では、時間がきて丁度くらいになると思いますので、それでは次回の日程について事務局から説明をお願いします。

#### 4 次回の日程

【事務局】

はい、次回日程の件ですけれども説明の方、させていただきます。4回目につきましては先ほども申しました通り、来年の1月14日木曜日9時半から、場所は同じくこの防長苑の2階になります。こちらの方で開催いたしますので、よろしくお願いします。

あと今日発言しきれなかったご意見、ご質問等ありましたら、資料8の意見書がありますので、そちらの方に記入いただきまして事務局の方に提出いただければと思います。次回、回答させていただきたいと思います、以上になります。

【会長】

はい、どうもありがとうございました。特に何かコメントとか、ご意見とかございますか、ないようでしたら以上をもちまして本日の会議を閉じさせていただきたいと思います。進行を事務局にお返しいたします。

【事務局】

委員の皆様方におかれましては、長時間に渡りましてご協力の方いただきましてありがとうございました。以上をもちまして、第3回の山口スマートシティ推進協議会を終了させていただきます。どうも本日はありがとうございました。

	5 閉会
	<p>次第</p> <p>資料1 「スマートシティ推進ビジョン策定について」</p> <p>資料2 「令和元年度第1期山口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗及び成果等」</p> <p>資料3 「山口市スマートシティ推進における人材育成の課題について」 濱田委員提供資料</p> <p>資料4 「山口商工会議所広域ビジネスサポートセンターの取り組みについて」 大田委員提供資料</p> <p>資料5 「公益財団法人やまぐち産業振興財団の取り組みについて」山本委員提供資料</p> <p>資料6 委員名簿</p> <p>資料7 配席図</p> <p>資料8 意見書</p>
問い合わせ先	<p>総合政策部 スマートシティ推進室</p> <p>TEL 083-934-2728</p>